

Tuuli

トウリー

2016年12月15日発行



第65回東京都社会福祉大会

東京都社会福祉協議会会長表彰状受賞のお知らせ

12月16日に東京都社会福祉大会が東京都庁で行われます。「多年にわたり社会福祉の発展に功績のあった社会福祉関係者を表彰し、感謝の意を表する。すぐれた活動内容を紹介し、福祉活動の普及・推進を行い、だれもが安心して暮らせる社会の実現を図る」という趣旨で、ボランティアさんや社会福祉施設職員、社会福祉の貢献者に表彰が行われます。

今年は鈴木幸子さんと阪口満里子さんが表彰を受けられます。

鈴木さんは「介護の勉強をしたい」と、昭和62年にお年寄りとのふれあい活動やフロアの日常生活援助を開始。その後、ご自身の特技を活かして書道クラブの指導もしてくださっています。30年近くの長い期間、特養利用者の生活を、日常面からも文化面からも支えてくださっています。

阪口さんは「自分の空いている時間を自分のためだけではなく、どなたかのお役にたてれば。」という思いがきっかけで、昭和61年からハウスキーピングで得意ミシンで清拭などを作ってくださっています。また草木もお好きなのでバザーの折には園芸で活躍してくださいませ。

長きに渡ってこのような活動をしてくださっていることに対し、東京都から感謝状が贈られます。おめでとうございます。そしてこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

クリスマスコンサート

送迎ボランティア募集

錦町3丁目にあります日本キリスト教団立川教会の飯島信牧師のご紹介で新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーによるヴァイオリン、フルート、コントラバス、そこにピアノを加えての四重奏でクリスマスコンサートが行われます。

ボランティアの皆様には特養のお年寄りの送迎、見守りをお願いいたします。音楽会もぜひ一緒にお楽しみください。

☆日 に ち：12月24日(土)

☆集 合 時 間： 9時30分(オリエンテーション後送迎開始)

☆場 所：センター2階 ホール

☆ボランティア終了時間：11時30分

介護体験!介護のお仕事チャレンジ講座

ご家族の介護のためにもっと勉強がしたい、ボランティア活動を始めたい、いつか介護の仕事をしたと考えておられる方を対象におむつ交換、車いす操作等を学びます。

◆日 時：平成29年1月14日(土) 9:00~12:00

◆場 所：至誠ホーム 4階研修室 ◆費 用：無料

◆内 容：講義「介護保険～総合事業ってなに?」実習「介護技術の基本～車いす移動、オムツ交換など

◆お申込み：042-548-0753 ◆担当：コミホーム 森・土方



タイトルのTuuliとはフィンランド語で「風」を意味します。皆様のもとにさわやかな風をお届けしたいと願っています。

連絡先

〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel: 042-527-0035 Fax: 042-527-2646
E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>



小学生の夏休み自由研究



夏休みに小学校3年生の橋本エリナさんが「おじいちゃんのお仕事を知りたい」と至誠ホームを訪れて、その体験やインタビューを夏休みの自由研究としてまとめてくれました。和光ホーム・スオミケアハウスの皆さんへのインタビューの一部をご紹介します。

Q. ボランティアでどんなお仕事をされていますか？

A. 朝みんなでおこなう体操そうやおさん歩のときに車いすを押すお手つだいをしています（一番こうれいで97才の方もいました！）他にもクラブ活動で、むかしの歌をみんなで歌ったり、マージャンと言うゲームを教えています。ホームの中でお弁当をつめたり、はいたつするお仕事もしています。

Q. ホームに住んでいてよかったと思うことは何ですか？

A. まずは安心してらせる事です。また、お友だちがたくさん出来たり、一年を通して色々な行事がある事は、とても楽しいです。

<まとめ、感想>

私が至誠ホームを見学してみて、老人ホームは、ねたきりや、お世話がひつような人だけではなく元気な方も家でくらすように生活できる場所だという事が分かりました。一人で家でくらすよりも、ホームでお友だちや、お世話をしてくれる人が一っしょにいる方が楽しそうだなと思いました。お年寄りのお世話をすることは、言葉が伝わらなかつたり大変な事もたくさんあるけど、お年寄りが楽しく過ごすには、とても大事なお仕事だと思いました。

とても温かい視点でまとめられた大作です。エリナさん（橋本理事長のお孫さんです）、どうもありがとうございました。



フィンランドとの日本の違い（施設編）



10月号に引き続き、本年度のフィンランド交換研修生で、生活アクティビティ副主任の筈川職員がフィンランドの施設と日本の施設との違いについてエッセイを寄せてくれました。

今回はフィンランドと日本の違いについてです。文化も考え方も当然違いますから、介護にも生活にもたくさんの違いがありました。どちらもいい所があり、決してどちらがいいというものではありませんが、いろいろと面白いこともあるのでご紹介します。

①自分の部屋はコーディネートできる。

コーディネートといっても壁紙を変えられるとかではありません。ベッドと床頭台は施設のものですが、他の家具（椅子とか棚）は部屋に入る程度なら持ち込み可能です。1つ1つ個性的で同じ大きさの部屋でもかなり違ったイメージになります。

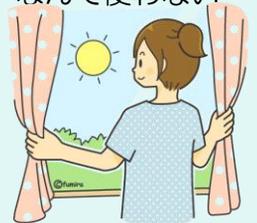


②食事の時間は意外と自由。

朝ごはんは9時からですが、起きたら食べるが基本なので11時頃に食べている方もいらっしゃいます。また、昼はしっかり、朝と夜は軽めなのですが、チョコレートとコーヒーがいつでも食べられるようになっていました。ちなみに昼は12時30分から、夜は17時頃からでした。

③移乗・移動用福祉機器を使うのが当たり前。

日本では最近少しずつ増えている移乗用リフトなどのベッドから車いすに移る移乗の際に使う福祉機器が当たり前に使われています。逆に「安全だし、職員の介護負担も軽くなるし、なんで使わないの？」と不思議そうでした。



④お風呂はシャワーとサウナ。

お風呂に湯船はありません。シャワーとサウナのみです。施設でも必ずサウナはあり、寝たきりでも体調が良ければ入ることもあります。「サウナで生まれて、サウナで死ぬ」という言葉があるぐらいサウナが大好きです。



⑤日光浴はとても大事！！

フィンランドは日本よりも北側にあるため、夏が短いのです。その為、温かい日差しは貴重で、「天気がいいから午後は庭でコーヒー飲みましょう」と各ユニットにあるテラス（花やブランコもあり、おしゃれです）でコーヒーパーティをすることもたびたびあります。日本も日光浴は好きですが、それ以上にフィンランドの方は大好きでした。

（写真はフィンランドの施設のテラスです。）生活アクティビティ 筈川梢